

教育センター 教職員研修及び教育センター事業 アンケート集計結果

回答数 3,081 人

問		回 答	人数	割合
問1	授業日でも	そう思う	1,540	50.0%
		どちらかと言えば	1,079	35.0%
		どちらかと思わない	314	10.2%
		思わない	92	3.0%
		無回答	56	1.8%
	午後から半日	そう思う	1,190	38.6%
		どちらかと言えば	1,193	38.7%
		どちらかと思わない	384	12.5%
		思わない	210	6.8%
		無回答	104	3.4%
	時間外	そう思う	301	9.8%
		どちらかと言えば	499	16.2%
		どちらかと思わない	1,188	38.6%
		思わない	958	31.1%
	土日	無回答	135	4.4%
		そう思う	166	5.4%
どちらかと言えば		399	13.0%	
どちらかと思わない		1,142	37.1%	
		思わない	1,239	40.2%
		無回答	135	4.4%

問		回 答	人数	割合
問2	研修内容について	教科指導・評価	1,546	50.2%
		特別支援教育	866	28.1%
		学級・HR経営	723	23.5%
		人権教育	593	19.2%
		教育相談	515	16.7%
		生徒指導	461	15.0%
		キャリア教育	432	14.0%
		危機管理	420	13.6%
		情報セキュリティ	398	12.9%
		情報モラル	396	12.9%
		組織マネジメント	384	12.5%
		保護者連携	373	12.1%
		学校評価	351	11.4%
		道徳教育	319	10.4%
		教育法規	300	9.7%
		性教育	241	7.8%
		健康・安全教育	224	7.3%
		総合的な学習の時間	204	6.6%
特別活動	193	6.3%		
企業体験研修	171	5.6%		
図書館教育	140	4.5%		

問3	情報教育	効果的な活用	1,929	62.6%
		Officeソフトの活用	1,660	53.9%
		その他	1,161	37.7%
		管理運営	982	31.9%
		児童生徒のスキルアップ	542	17.6%

問4	教育相談	電話	2,046	66.4%
		いじめ110	1,925	62.5%
		専門相談員	1,891	61.4%
		来所	1,829	59.4%
		相談会	1,290	41.9%
		訪問相談	1,104	35.8%
		LDホット	916	29.7%
		相談メール	798	25.9%
		ハートフル	233	7.6%

問5	支援室について	よく知っている	561	18.2%
		聞いたことがある	1,791	58.1%
		知らない	673	21.8%
		無回答	56	1.8%
	支援内容	不登校・生徒指導	1,391	45.1%
		特別支援教育	1,266	41.1%
		校内研究等への支援	958	31.1%
		教科の学習指導と評価	932	30.2%
		学級経営	564	18.3%
		学校評価/組織マネジメント	459	14.9%
		教育課程の編成	404	13.1%
		総合的な学習の時間の展開	282	9.2%
	教育情報の提供	指導のヒント集	1,588	51.5%
		教材教具	1,504	48.8%
		学習指導案	1,010	32.8%
		研修講座ビデオ・資料	653	21.2%
		研究開発の成果	471	15.3%
		教育調査データ	304	9.9%
	時間帯	研究紀要	108	3.5%
平日夕方		1,380	44.8%	
勤務中		881	28.6%	
土曜日		540	17.5%	
		無回答+その他	280	9.1%

回答者	回答数	基本数	割合
小学校	1,450	2,616	55.4%
中学校	601	1,502	40.0%
高等学校	671	1,551	43.3%
特別支援	328	596	55.0%
所属無回答	31		

教職員研修及び教育センター事業に関するアンケートについて

	見えてきたこと	課題と対応方針
研修企画課	<p>(1) 授業日に受講することについて肯定的な受けとめをしている 必要な研修は受講したいという意思の表れだと感じる</p> <p>(2) 半日開催を希望している割合も高い</p> <p>学校種別に見ると、小学校・特別支援が若干高い 小学校・特別支援学校が担任に依存する割合が高いためと考えられる</p> <p>(3) 管理職の半日開催を希望の割合が若干高い 学校管理・運営の責任を負う管理職にとって学校を丸一日あけることは、不安もあるのではないかと考えられる</p> <p>(4) 総じて、時間外・土日開催の研修は望んでいない 中学校・高等学校は土日も部活動があるため出づらいのではと思う</p> <p>(5) 特別支援学校の時間外・土日開催希望の割合が他校種と比べて高い 担任に依存する割合が高いためと考えられる</p> <p>(6) 研修内容について教科指導、学級・HR経営、特別支援教育ではどの校種でもニーズが高い 校種、管理職・教諭によってかなり違いがある</p> <p>(7) 県教育センターの研修講座は、おおむねニーズに対応していると判断できる</p>	<p>(1) 授業時間帯も参加しづらい、校内の制約などの理由で受講しない者が多くいる → 講座の質の向上に努め、様々な機会を通して広報する → 講義によりねらいを明確にしながら、演習を厚くしたり、協議で受講者同士のネタを情報交換し合ったりする配慮が必要。 → 講座内容に「指導のヒント」「教材教具」等、日々の実践に即活用できるものを取り入れていくことも必要。</p> <p>(2) 半日開催について → 職務研修等で、複数回の研修があるものに関しては半日開催を検討してもよい。</p> <p>(3) 図書館教育のニーズがアンケート調査からは見えてこない。 → 司書教諭、司書等のニーズが把握できるアンケート項目をつくる</p> <p>(4) 教諭の学校組織マネジメントのニーズが管理職に比べて低い → 主事派遣や講座の中でDVDの活用を呼びかける。 → ライフステージに応じたマネジメント研修の内容をさらに検討する</p>
情報教育課	<p>(1) 特に教諭で授業でのICT活用指導力向上を望む声が多い</p> <p>(2) 全般的に校務能率でのICT活用能力の向上を求めている</p> <p>(3) 全般的に児童生徒のスキルアップに対する関心が低い</p> <p>(4) 管理職・事務職員において管理運営分野に比較的関心が高い</p> <p>(5) 全般的に情報モラル・情報セキュリティの関心が高い</p> <p>(6) 土曜日より平日時間外の講座への希望が多い</p>	<p>(1) 授業でのICT活用指導力向上研修の希望が多い → 小学校だけでなく中学、高校対象の活用指導力向上研修を実施する → ねらいを明確にした活用の仕方意識できる工夫を行う</p> <p>(2) 受講目的がスキルアップ向上に偏る傾向がある → スキルアップ研修に教育的効果の意識化を織り込んだ研修を実施する</p> <p>(3) 児童生徒のスキルアップに対する関心が低い → 児童生徒のスキルアップと情報活用能力をねらいとした研修を実施する</p> <p>(4) 児童生徒の情報モラルの育成 → 現状把握のほか指導方法を盛り込んだ研修を実施する</p> <p>(5) 土曜日セミナーの参加者が少ない → 平日時間外の放課後セミナーを実施する</p>
教育相談課	<p>(1) 教育相談課が実施している事業が先生方に理解されていない</p> <p>(2) より身近な教育相談体制の確立を望む声が多い ・学校への訪問相談、スクールカウンセラーの配置拡大を要望する声が多い ・中・西部の相談体制の充実が求められている</p> <p>(3) 困難な事例への対応で困っている学校が多い ・保護者対応、虐待、ひきこもり、学級崩壊</p> <p>(4) 教育相談についての情報提供を求める声が多い ・発達障害(アセスメントの仕方、特性理解、指導法等)についての情報 ・教育相談についての知識や情報</p> <p>(5) 学校と関係機関等との一層の連携を望む声が多い ・教育センターと学校、特別支援学校 ・学校と医療、行政機関</p> <p>(6) 研修の充実を望む声が多い ・教育相談について専門性の高い研修 ・演習や体験を取り入れた研修</p>	<p>(1) 教育相談課の事業について、より広く周知していく必要がある → 各学校への周知の仕方、周知時期を改善する → 民間や社会教育の場でも広報を行う → HPを活用する</p> <p>(2) より身近な教育相談体制を確立する必要がある → 積極的な訪問相談等を実施して、学校での教育相談の充実を図る → 中・西部教育局、関係機関と連携して、中・西部の教育相談体制の充実を図る</p> <p>(3) より困難な事例へ対応していく必要がある → 専門機関との連携強化、相談員の専門性の向上を図る → 各学校、関係機関への訪問を実施し、情報提供し合いながら連携強化を図る</p> <p>(4) 教育相談についての研修を充実していく必要がある → 研修企画課との連携を図る</p>
学校教育支援室	<p>(1) 支援室について → 管理職には、アドバイザー派遣事業を中心に認知が広がっている → 逆に支援室の存在は、一般教職員には知られていない</p> <p>(2) 支援内容について → 学校現場は、不登校・生徒指導、特別支援教育に関する内容に関心がある → 学校現場は、教科指導を含め、校内研究の活性化に課題がある</p> <p>(3) 情報の提供について → 学習指導案の収集・提供はヒットである → 指導で即使える教材教具等が求められている</p> <p>(4) 利用時間について → 平日・研修帰りの利用希望が断然多い</p>	<p>(1) 支援室の存在そのものが知られていない 知っていても利用する機会がない → センターHPに、支援室ページを立ち上げ、教育情報を提供する → 支援室から「メルマガ」を個人メールに発信する → DVD・新着図書の出張貸出を行う</p> <p>(2) センターの持つ様々な情報・データを十分活用しきれていない → 指導案の一層の収集と公開を行う → 講師による示範授業等映像資料を充実する</p> <p>(3) 授業改善・児童生徒理解に関する情報提供ができていない → 教材教具・ワークシート等をHP、Torikyo-NETを活用して公開する</p> <p>(4) SVの存在並びにその活用効果が実感されていない → SVとの共同研究の成果を公表する → SVを伴う授業力セミナーを実施する</p>

<自由記述の主な質問に対する回答>

教育相談課への質問

質問1 事業内容について知らないことが多いので、相談があれば身近な他の相談機関を利用してしまおう。

認識不足かもしれないが、情報をもっとあってもよいのではないかと。
→ 教育相談課では、県教育センターホームページに教育相談に関する情報を載せております。
また、年度当初には各幼稚園・保育所(園)、各学校にチラシを配布しております。
今年度は特に各地区公民館にも掲示物を配布して広報してまいりました。
今後とも広く情報が行きわたるように努めたいと考えておりますので、ぜひ御活用ください。

質問2 ハートフル・ゆにっとの機会が東部、中部、西部で均等にうけられるように条件整備をお願いしたい。

行きやすさが、東部に一局集中しないような配置をお願いしたい。
→ ハートフル・ゆにっとは現在、研究調査事業「ひきこもり(傾向)の生徒支援に関する調査」の一貫として、県教育センターに設置しています。
今後、研究調査の結果をもとに、全県にどのように広げていくか検討したいと思います。

質問3 各都市に設置されていた支援教室が縮小され、郡部の遠距離からセンターまで、なかなか相談に行きにくい実態がある。

交通の不便なところに住んでいても、相談ができる工夫を今以上に望む。
→ 昨年度まで県が設置していました教育支援センター(適応指導教室)9カ所はなくなり、各市町村で10の教育支援センター(適応指導教室)を開設しています。
より身近な相談機関として、学校不適応の子どもたちの通所施設として機能しております。
詳細につきましては、教育センター教育相談課へ連絡ください。

学校教育支援室への質問

質問1 学校教育支援室はどのような利用ができるのかを知りたい。

→ 教育センター学校教育支援室には、大きく4つの機能があります。

- 1 教育センターの総合窓口
教育センター内各課はもちろん、様々な機関と連携して、学校支援にあたります。来所、電子メール、電話、ファクシミリ等連絡方法は問いません。
- 2 8名のスーパーバイザーによる学校コンサルティング
8名のスーパーバイザーとともに、学校・研究団体等への支援活動をおこなっています。直接学校訪問することも可能です。
また、教育セミナーのように、広く学びの機会も提供しています。
- 3 アドバイザー派遣事業の窓口
アドバイザー派遣事業の窓口となっています。
アドバイザー派遣事業には大学教授等を講師として招く、外部講師派遣と、センター主事による出前研修・指導助言の要請の2種類があります。
本年度は、センター主事による出前研修への依頼が増えました。
- 4 県内唯一のカリキュラムセンター
全国教育センターの研究紀要をはじめ、研修講座の記録DVD、教育図書等数多くの教育資料をそろえています。
「困ったことがあったら学校教育支援室」という感じで、気軽に御相談下さい。

質問2 鳥取まで行くのは大変。各地区にあるともっと利用できるのではないかと?

→ 学校教育支援室への相談は、来室だけでなく、電子メール、電話、ファクシミリと様々な方法で受け入れております。
また、中部・西部研修の際の、センター所有の研修記録DVD・授業DVD・新着図書等の出張貸出を考えています。